

〈解答〉

① 1 羽(羽根)

2 関心

3 才

4 「例」恵方巻きを食べる意味や由来を知っている人が約一割しかない(29字)

配点 ① 1、3は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

①

1 「鬼の居ぬ間に洗濯」とは、「怖い人や気兼ねする人のいない間に思う存分くつろぐこと」を意味することわざである。「鬼」は鬼のように怖い人、「洗濯」は命の洗濯の意で、日頃の苦労や束縛から解放されて気晴らしを楽しむことを表している。これと同じように自由に振る舞うという意味を持つ慣用句が「羽(羽根)を伸ばす」。

2 「インタビュ」では、最近豆まきをする声を聞かなくなった理由として、3～6行目『豆まきをする時間のない人や節分自体に **A** を持たない人が増えたからかもしれない』と推測されているが、これは【話し合い】の22、23行目『伝統行事への関心が薄れてきているのかもしれない』という内容と同義である。

3 「立春」は「正月節」とも言う二十四節気の最初で、冬至と春分の中間にあたり、旧暦では新しい年と春の始まりとされていた。現在では2月上旬であり、暦の上では春となるので、手紙の「寒中見舞い」は立春の前日までとなり、以降は「余寒見舞い」(2月下旬頃まで)になる。

4 「恵方巻きを食べる人」を基準とした【資料】からは、「恵方巻きを食べる意味や由来を知っていますか?」という質問に対して「知っている」と回答した人が12・8%しかないことが読み取れるので、このことを空欄に合わせてまとめる。